

# 担い手通信

2023  
vol. 1

## 人材育成のポイント

# 職務満足度を高めて

農業経営体の従業員の雇用人数が近年、増えています。こうした中で課題になるのが、雇用した人材の定着や育成をいかに図るかです。業務をマニュアル化して誰でも習得しやすくすることや、意欲を引き出す評価の仕組みづくりなどが鍵となります。

## 雇用人数 規模拡大主因 5年で3割増

2020年の農林業センサスによると、農業経営体の雇用人数は全国で110万4330人です。1経営体当たり7.1人を雇用了計算となり、15年の前回調査時の5.3人から増えました。これは、経営規模の拡大が主因です。品目別では養鶏の14人が最多で、養豚の8.6人と畜産が先行しています。収穫や調製などで手作業が多い露地野菜が7.8人、施設野菜が7.6人、花きが7人、果樹が6.8人と続きます。

農研機構本部は「農業は人手の確保が大きな課題。一度雇った人材を確実に定着・育成することが重要になる」（農業経営戦略部）と指摘しています。

## 定着には マニュアルで作業意図共有

同機構は「農業法人における従業員の人材育成ガイドブック」で、従業員の定着に向けた組織づくりのポイントをまとめました。雇用人数が増えればその分、経営者が従業員1人当たりと接する時間も減らざるを得ません。その中でも意図したように従業員に作業を進めてもらうには、作業のマニュアルを策定し、共有できるようにすることが重要といえます。また、新たに雇った人材の教育にかかる負担を減らせる効果もあります。

さらに、役割分担の明確化も重要といえます。どこで、誰と、どのような作業をするか見通しが立ちやすく

なれば、日々の仕事への責任感や関与が強まり、満足度が高まります。一方、役割分担がなぜ必要か説明が不十分だったり、役割の範囲が狭過ぎたりすると、意欲低下につながりかねません。面談などで従業員の考えを把握し、役割分担を見直すことも必要です。

## 効率化へ 熟練者の技術 4段階で継承

ガイドブックでは従業員育成のポイントも解説しています。作業を覚えてもらうには、①作業をやってみせる②説明する③作業させてみる④不足・修正点を伝えるの4段階での実施が有効としています。

同機構が調査した施設園芸経営では、具体的な取り組みとして①、②段階では、社員らが付き添って指導、写真入りのマニュアル提示、作物の基礎知識に関する勉強会の開催などを実施。③、④では熟練者の作業動画を見せ、作業が速い従業員が遅い従業員を指導しています。

同部は「熟練者の技術やノウハウをマニュアル化して、他の従業員でも担えるようにするのが確実な育成方法だ」と指摘しています。

### 働き手の定着・育成のポイント

#### ▶ 作業マニュアルの作成

経営者の意図したように作業を進めるのに重要。新たな採用者への教育の負担も減らせる

#### ▶ 役割分担の明確化

日々の仕事への責任感や関与が強まり、満足度が高まる

#### ▶ 段階的に指導

①作業をやってみせる②説明する③作業させてみる④不足・修正点を伝える — の4段階での実施が有効

農研機構の「農業法人における従業員の人材育成ガイドブック」を基に作成

(日本農業新聞 2023年2月27日)